

令和7（2025）年度

2月入学試験問題

一 般

専 門 科 目
(簿 記)

受 験 上 の 注 意

1. 試験開始の合図があるまで試験問題を開いてはいけません。
2. 受験者は、すべて試験監督員の指示に従ってください。
3. 試験時間内の退室はできません。
4. 解答用紙のみ提出してください。
5. 試験時間は60分です。

(会計専門職研究科)

会計専門職研究科
令和 7 (2025) 年度 2 月入学試験問題
【 簿 記 】

【1】当社（3月末決算）の下記の各取引についての仕訳を示しなさい。なお、計算にあたって端数が生じる場合には、円未満を四捨五入すること。また、各取引に関連はない。

1. 当期首に営業用建物の改修を行い、代金 450,000 円は小切手を振り出して支払った。なお、改修代金のうち 300,000 円については、建物の耐用年数を延長させる効果があると認められる。また、修繕積立金の残高は 120,000 円である。
2. 記帳済みの電子記録債権から 40,000 円を仕入先 A 商店に譲渡し、譲渡記録を行った。このうち、34,000 円は A 商店に対する買掛金を決済するためのものであり、残りは電子記録債権を現金化して 5,000 円を得るためのものである。現金化した代金は当座預金口座に入金された。
3. 得意先 20 社に商品 200 個を売価@300 円で売り上げ、当該商品の引き渡しを行うとともに代金は得意先振出の小切手で受け取った。得意先には返品権を付与しており、当社は販売した商品のうち 10 個が返品されると見込んでいる。販売した商品の原価は@160 円である。なお、当社では商品販売に関して、商品を仕入れたときに商品勘定で処理し、販売のつど売上原価を売上原価勘定に振り替える方法で記帳している。このときの①収益を計上するための仕訳と、②売上原価を計上するための仕訳を示しなさい。
4. 当期の6月12日に満期保有目的でC社社債（額面総額800,000円、利率は年2%、利払日は3月末日の年1回）を額面100円につき97円で買い入れ、代金は購入手数料3,000円および6月12日までの端数利息とともに小切手を振り出して支払った。端数利息は日割で計算すること。
5. 株主総会の決議において、その他資本剰余金からの200,000円と、繰越利益剰余金からの300,000円を配当財源として500,000円の配当を行うことを決定した。また、配当金の10分の1を準備金として積み立てた。
6. 新製品の研究開発のための実験に用いる器具を20,000円で購入し、代金は現金で支払った。この器具は当該実験以外の目的で使用することはできない。
7. 増資のため、普通株式100株を@50,000円で発行し、全額払い込みを受け、払込金は当座預金とした。なお、株券の印刷費20,000円は現金で支払った。資本金とする額は、会社法が定める最低限度額とする。
8. 当期末において、使用中の備品を除却し、処分価額を4,500円と見積もった。当該備品の取得原価は60,000円であり、残存価額6,000円、耐用年数4年として、定額法による減価償却が行われてきた。前期末における減価償却累計額は40,500円であった。なお、減価償却の記帳法としては間接法を採用している。

会計専門職研究科
令和 7 (2025) 年度 2 月入学試験問題
【 簿 記 】

9. 決算に際して、消費税等の納付額を計算し、これを確定した。なお、消費税等の会計処理は税抜方式によっており、当期の消費税等仮払分は 280,000 円、消費税仮受分は 820,000 円であった。

【2】 次の〔資料Ⅰ〕〔資料Ⅱ〕にもとづいて、解答用紙の精算表を完成しなさい。
会計期間は X2 年 4 月 1 日から X3 年 3 月 31 日である。なお、端数が生じる場合には円未満を四捨五入すること。

〔資料Ⅰ〕 未処理事項

1. 決算にあたって金庫の中を確認したところ、A 社株式の配当金領収書 10,000 円が未処理であることが見つかった。
2. 当期に掛で販売した商品について、傷がある旨の申し出が取引先 B 社からあり、請求額から 30,000 円を減額していたが、未処理であることが判明した。
3. 取引先 C 社が倒産し、同社に対する売掛金 8,000 円が貸倒れとなったが、未処理であることが判明した。そのうち 5,000 円は当期に計上したものであった。

〔資料Ⅱ〕 決算整理事項

1. 受取手形および売掛金の期末残高に対し、3%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
2. 期末商品棚卸高は次のとおりである。なお、売上原価の計算は「仕入」の行で行う。なお、棚卸減耗損と商品評価損を計上する場合には、精算表上独立した科目で示すこと。

帳簿棚卸高	数量 500 個	原価	@50 円
実地棚卸高	数量 470 個	正味売却価額	@62 円

3. 当社が保有する有価証券は A 社株式、D 社株式、および E 社株式である。A 社、D 社、および E 社はすべて当社の関連会社であり、それらの会社の発行済み株式数に対する当社の所有株式数の割合はいずれの会社についても 20% である。これらの株式の簿価および期末の市場価格は次頁のとおりであり、D 社の市場価格の下落については回復の見込みはない。また、E 社は経営状況が非常に悪化しており、当期末の決算後の純資産額（時価ベース）は 80,000 円になっている。なお、今後において E 社の業績が回復する見込みはない。

	株 数	取得原価	期末の市場価格
A 社株式	200 株	@200 円	@180 円
D 社株式	200 株	@300 円	@120 円
E 社株式	100 株	@400 円	なし

会計専門職研究科
令和7(2025)年度2月入学試験問題

【 簿 記 】

4. 固定資産の減価償却を以下の方法で行う。なお、月次での減価償却は行っておらず、1年分の減価償却費を一括して期末に計上する。小数点以下の端数が生じる場合には、四捨五入する。
- | | | | | | |
|-----|------|-----|------|---|---------------------------|
| 備品： | 耐用年数 | 5年 | 残存価額 | 0 | 200%定率法 |
| | | | | | (保証率 0.10080 改訂償却率 0.500) |
| 建物： | 耐用年数 | 40年 | 残存価額 | 0 | 定額法 |
5. 長期借入金 200,000 円（利率は年 3%）の借入日は X2 年 8 月 1 日であり、利払日（現金払い）は 7 月末日と 1 月末日である。利息は月割りで計算する。
6. 買掛金の中に、ドル建ての買掛金を 63,000 円（450 ドル、仕入時の為替相場：1 ドル 140 円）が含まれており、決算時の為替相場は 1 ドル 150 円であった。なお、為替予約は行っていない。
7. 保険料は、かねてより毎年同額を向こう 1 年分一括で支払っている。支払日は 9 月 1 日である。未経過分の繰延べを月割計算により行う。

受験番号					

※ 氏名は記入しないこと！

解答用紙（専門科目） 【簿記】

評 点	/ 100
--------	-------

熊本学園大学大学院
会計専門職研究科

【1】

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3	①			
	②			
4				
5				
6				
7				
8				
9				

受験番号

※ 氏名は記入しないこと!

解答用紙 (専門科目)

【簿記】

熊本学園大学大学院
会計専門職研究科

【2】

精 算 表

	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	85,000							
当座預金	228,500							
売掛金	458,000							
繰越商品	22,000							
備品	400,000							
建物	700,000							
土地	150,000							
関連会社株式	140,000							
買掛金		226,000						
長期借入金		200,000						
貸倒引当金		9,000						
備品減価償却累計額		313,600						
建物減価償却累計額		437,500						
資本金		600,000						
繰越利益剰余金		183,000						
売上		789,000						
仕入	432,100							
給料	112,000							
保険料	25,500							
支払利息	5,000							
	2,758,100	2,758,100						
()								
貸倒損失								
貸倒引当金繰入								
棚卸減耗損								
関連会社株式評価損								
減価償却費								
() 利息								
為替 ()								
() 保険料								
当期純 ()								